

## 兵庫県<sup>ささやまし</sup>篠山市と<sup>たんばし</sup>丹波市の視察（下）

### 「人を呼び込むまちづくり」

議員 木村 諭 史

#### ・ 都会から地方へ I ターン

2泊3日の兵庫県議員視察において、前号の篠山市に続き丹波市編を報告する。丹波市訪問の目的は、移住支援策の調査とI(アイ)ターンを促進する人や活動の視察である。Iターンとは都会から地方への移住のことであるが、都会にない自然・人のつながりなどの価値を求めて、積極的に地方での人生を選ぶ人たちも増えている。

#### ・ 丹波は広かった！ 23区並みの広さに250の集落

篠山市から隣の丹波市は、奥多摩にも似た溪流沿いをバスで一時間ほど進むとようやく次の中心市街地が姿を現すほど広大であった。

それも当然で、丹波市は493km<sup>2</sup>と東京23区のおよそ8割に匹敵にする面積に7万人を切る人口を有している。丹波市に集落は250あるといわれ、集落の独自性が高く自治を大事にすることから、集落ごとに人をつなぎ止める機能を有している。



丹波市へ向かうバスの車窓から。

#### ・ “Iターンさん” 集落の中でのよそ者像

丹波市の中心市街地には市外からの通勤者も多いものの、周辺集落では今まで『よそもの』が入ってきたことが少ないため、『あなたがIターンさんか！』と珍しいものになっている。また集落内の共同作業に徹底して参加するなど『村入り』しないと溶け込めないそうだ。

#### ・ 充実した移住施策を学んだ議会訪問

丹波市議会への表敬訪問の際には、17 項目にわたる空き家対策や移住受け入れ政策など充実した政策に圧倒された。一例として、『今のまま住み続ける発生予防対策』ではリフォーム助成でおよそ 3000 万円の予算、『有効に活用する利活用対策』では住居・起業・地域活性化支援など目標別に合わせて 1000 万円を超える空き家等回収補助金、『危険家屋対策』でも 2000 万円を超える予算を確保している。また、丹波市では議員各自が地方創生を本気で考え、会派ごとに予算根拠も含めた提言を行っていた（これに刺激を受け、新島村議会でも議員間で連携して政策立案しようという合意がなされた）。

### ・シェアハウスの現場を視察しました！

丹波市の移住支援策の一つである、1 ターン専用シェアハウス『みんなの家』を見学した。

シェアハウスとは、複数の入居者で住宅を共有（シェア）するものである。一軒家を一人で借りるより家賃は安く、部屋は各個人で施錠できるが台所やトイレは共有する場合が多い。入居者同士で食事や悩み相談が共有できるため、移住相談から地域への定着まで柔軟に支援できる。



みんなの家にて。左側の代表者・井口氏の説明。

シェアハウスとは、複数の入居者で住宅を共有（シェア）するものである。一軒家を一人で借りるより家賃は安く、部屋は各個人で施錠できるが台所やトイレは共有する場合が多い。入居者同士で食事や悩み相談が共有できるため、移住相談から地域への定着まで柔軟に支援できる。

### ・人が人を呼ぶ、1 ターン促進のしくみが見えた！

代表の井口元氏は、2012 年 11 月に後述する横田氏の選挙応援を通じて移住し、2013 年 1 月にはシェアハウス『みんなの家』を始動させ、9 月には法人化させるほど機敏に活動している。『株式会社みんなの家』は 2015 年度は丹波市からワンストップ相談窓口業務の委託を受け、2016 年度も継続している。訪問時点では 11 人の 1 ターン者を受け入れ、歴代 8 軒のシェアハウスが立ち上がっていた。

『みんなの家』は、入居のルールが特にないかわり、窓口になる人の個性や、物件・地域性にあわせて新しい居住者を紹介していく方法をとっている。あるシェアハウスから独立した人が新しいシェアハウスを開く『のれん分け』も広がっている。入居者の特徴として、20～30 代の若者が多いこと、不要物を引き取って使うなど、でき

るだけお金を使わないこと、お金を支払う / 貰うという関係だけで終わらない人付き合いを作ること、仕事の半分くらいを自ら作って兼業している人が多いこと、などがあげられる。

・人が集まるしかけづくり。その裏側を見た！

夜も 20 時を過ぎ、議員有志と議会事務局職員でたんば黎明館にて行われた Birthday（バースデー）というイベントを視察した。

丹波市をもりあげたい！という思いとアイデアと行動力が寄り集まって、『新しい活動が生まれた日＝バースデー』になってほし



会場となった兵庫県有形文化財のたんば黎明館。

いという願いで、地域住民が自発的に数か月おきに開催している。その中心になったのが丹波市議会議員の横田親（いたる）氏である。

横田氏は大手企業を退職後、丹波に 1 ターンし、なんとインターネットと人脈をフル活用して出馬決意から 10 日後に市議会議員当選、という稀有な経歴を持っている。この日のイベントは、3 人の提案者が 5 分発表し、参加者が輪になってアイデアを磨き上げ、最後に賛同者を集めて解散する、という内容であったが、40 人ほどの参加者の中には、遠く北海道から参加した熱意ある若者も居た。

・場所だけではない、活動や人への視察から得たもの

今回の兵庫県篠山市・丹波市視察では、両市とも時間オーバーの充実した議会訪問から、現地視察⇒実際の活動への視察⇒人への視察・交流へと、徐々に細かくフォーカスを合わせていった。施設や街並みはいつでも訪問できるが、活動の現場や人にはいつでも会えるわけではない。1 ターン増加と政策的に言うことは可能であるが、先駆者の人生をかけた実例から読み取れるように、圧倒的な熱意を持った個人の存在、人の縁、飛び込む人・受け入れる人の個性に合わせた助言、空き家の流通支援など、人を軸にした柔軟な対応がなされてこそその移住施策の実行であることが、議員一同、深く理解できた。今回の視察を通じて事務局と議員で共有できたことを、血が通った政策提案に役立てていきたい。